

平成30年川南町学校規模適正化審議会第2回審議会会議録

平成31年1月16日  
午後6時00分 開会  
川南町生涯学習センター

審議会出席者

委員長：染川比呂志 副委員長：平塚金治

委員：坂本幹夫 川井田 修 永友和美 高橋陽子 松浦峻男 黒木 和敏 長野碩夫  
金丸和史 富高保弘 永友繁美 神谷則子 宮崎吉敏

欠席者：堤 康敏

事務局出席者

教育課長：大塚祥一 教育対策監：肝付正籍 課長補佐：渡部好文

学校教育係長：林 義光

<午後6時00分開会>

○会 長 << 挨拶 >>

○協 議 議 長 染川会長

(1) 知識・技能の習得について (学力も含め)

委員意見

少数学級でしっかりと習得させることができる。→少人数 効果はある。

(唐瀬原中 数学・英語、国光原中 数学) 規模によって理科もできる。

講師がない。(教員も不足している。臨時免許)

学力面から専門の教員がほしい。

小学校でも専門の教員がほしい。(特に英語) 適正規模でないと配置されない。

県から指定があり少人数学級に配置がある。人数が関係する。

今の状態で教員(町内の学校)を増やすのは無理

人数が多いと教員の配置が多くなる。(県の基準がある)

(2) 社会規範意識の育成について

委員意見

少人数より大きい組織のほうが、学ぶことが多くあるのではないかと。

それぞれ、良い面、悪い面があると思う。

少人数でも良いところは、いっぱいあると聞くが、自分達は、多い人数で学校生活を過ごしていたので、多い人数が当たり前と考えている。

小規模校でも意識は、変わらないと思う。

中学校で担う役割があると思う。ある程度の組織が前提としてないと、役割を担う

人がいなくなる。役割を担うことが、規範意識の育成に繋がると思うので、ある程度の人数は必要と考える。

多い、少ないではなく、環境や質が良ければ関係ないと思う。

### (3) 学校運営について

#### 委員意見

少人数校、ファミリー的で小学校のお手本になっていた。反面、人間関係の固定化、多い学校に遠慮するところがあったため、交流学校を実施していた。ある程度の人数がいると、委員会やクラブ活動を充実させられる。気を付けないといけないことも多くあると思う。

119名の生徒でも学校は維持できる。しかし、専門の教員が不在となる。専門外を教える教員が存在する。

教員が少なくてもできるが、大きな規模の学校であれば、教員も適材適所に配置ができる。

教員自体は、配置基準で配置しているので不足していないが、講師は、なかなか見つけられない。(力量にも差がある)

### (4) 部活動について

#### 委員意見

生徒がやりたい部活動がない。部活動の選択肢が少ない。

強いチームになってほしい。

学業や集団生活も必要だが、部活動も大きなウェイトがあると思う。

クラブチーム的な考えで、大会に出場した子もいる。(剣道、水泳)

大会に1人で参加する姿を見ていると、少し寂しい感じもした。

### (5) 地域づくりについて

#### 委員意見

学校があっても、無くても変わらないと思う。

P T A活動は、保護者の考え方が変わってきている。

大きい学校だと誰かがするだろうと、考えるのではないか。(P T A活動)

中学校と地域づくりとの関係は薄い。

中学生を地域行事に呼ぼうと思うと、なかなか難しい。

新しいものを作るのは、現状維持より難しい。

地域づくりを考えたら、2校存続。子供のことを考えたら、統廃合。

統廃合してしまうと、昔から築かれたものが無くなってしまう。

時間が経つと、薄れて行き、忘れ去られてしまう。

良いものが無くなってしまう。(人口減少により)

地域づくりは、切離して考えるべきではないか。

地域づくりと教育現場は、別に考えるべき。

**議 長**

長時間ありがとうございました。以上で終了します。

**○その他**

**事務局**

それでは、6その他になっておりますが、何か御意見はありますか。

《 意 見 な し 》

では、次回は2月20日、18時から開催いたします。また、通知を出しますので、よろしくお願ひします。

《 事 務 連 絡 》

それでは、以上を持ちまして、第2回の審議会を終了いたします。ありがとうございました。

<午後7時40分終了>